

論壇

かつてないほどに低下

最近、新聞紙上で長期金利についての話題が多く取り上げられていることに気付いている読者も多いだろう。長期金利とは、通常は、償還まで10年あるいはそれ以上の長期の国債の利回りを指すことが多い。

日本では、10年物の国債の利回りはマイナス圏内に入っている。たとえば満期になって償還されるときの価格が1万円の国債を現在購入しようとするれば、その値段は1万円を超えてしまうのだ。1万円以上の価格で購入した国債

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

を10年保有していても、最終的に1万円にしかならない。つまり、利回りがマイナスということなのだ。

日本の長期金利がマイナスになっているのは、日本銀行がマイナス金利政策をとっていることの影響が大きい。今年の初めに日本銀行がマイナス金利政策の発動の決

策への恨み節が聞かせる。

注目すべきなのは、長期金利が低くなっているのは日本だけではなく、ドイツの国債利回りなども、マイナス圏になっている。欧州中央銀行もマイナス金利政策をとっているので、長期の国債利回りがマイナスになると見ることもできる。

世界景気と長期金利

定をしてから、国債利回りや住宅ローンの金利などは低下傾向を強めている。国債利回りについては、ついに10年物でもマイナス金利になるところまでになってしまった。おかげで金融機関の利益には大きな影響が出てきている。金融機関の方々はマイナス金利政

ただ、マイナス金利をとっていない米国や他の先進国でも、長期金利は非常に低い水準となっている。世界的な長期金利の低さであるといつてよい。こうした動きを見て、世界経済全体が深刻な不況に陥っていると見る専門家も少なくない。

一般的に長期金利は中央銀行の政策だけでなく、経済の一般的な状況を反映したものとなる。景気が悪く資金需要が弱ければ、それだけ長期金利も低くなる傾向が強い。世界の多くの国でかつてないほどの長期金利が低くなっているのは、世界経済が全体として厳しい景気低迷となっていると解釈すべきだろう。

財政政策に期待高まる

そこでこの景気低迷からどう抜け出したらよいのか。これが世界的な問題となっている。その手法としては、金融政策と財政政策が考えられる。ただ、金利を下げることによって景気を刺激する金融政策は、すでに大幅な金利安にある今の状態では限界があるように

見える。それでも日本や欧州の中央銀行はマイナス金利政策をとって、なんとか経済に刺激を与えようとしている。比較的景気回復が早い米国でも、金利の引き上げの時期を遅らせている。

金融政策にはまだ活躍の余地はあるが、限界も見えているということだろう。そこで、財政政策への期待感が高まることになる。こうした中で、日本が消費税率の引き上げを延期したのだ。その功罪にはいろいろな議論があるだろう。この点についてはいずれ機会をみて議論したいと考えている。ただ、財政政策の活用は別としても、世界的な景気低迷があるといつことは確認しておく必要があるだろう。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。